

## 事例5 小学校・低学年（1年生）

### 自己を見つめ、生き方につながる授業～ウェルビーイングの視点を取り入れて～

#### 1 主題名 よりよい自分へ 内容項目 A 節度、節制

2 ねらい 主人公の心の動きを考えることを通して、わがままをしない規則正しい生活が自分や周囲にとって大切であることに気付き、自分で考えて行動する心情を育てる。

教材名 大好きなタブレットタイム

（出典：「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」）

#### 3 主題設定の理由

##### （1）ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をすること。」に関するものである。内容項目は、第3学年及び第4学年の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をすること。」につながっていく。

この段階においては、身の回りを整えて規則正しい生活を送ることの必要性については理解できているが、実践することが難しい。自己中心的な思考が強く、自分の欲求や欲望のままに行動しようとする傾向がある。進んで自らの生活を整えるという意識は低く、家族や教師といった周囲の大人に指摘をされて改善しようとする姿が多く見られる。

指導にあたっては、自分の都合のよい方や苦労を避ける方へ流されてしまいがちな人間の弱さに寄り添いながら、よりよく生きるために自らの欲求や欲望を抑えることのよさや必要性を感じさせることが大切である。また、自らを節制することで、自分だけでなく身近な人や社会全体にも影響を与える、よりよい生き方やよりよい社会につながっていくことにも気付かせたい。主人公の行動や心情を考えることを通して、わがままをしないで生活することのよさについて深く考えさせたい。

##### （2）これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、素直な子が多く、学校生活アンケートからは楽しく前向きに学校生活を送っていることが見受けられる。しかし、活動や遊びに夢中になり次の活動へ遅れてしまうなど、切り替えが上手くできずに学校生活に支障をきたすことがある。周囲に声をかけられると気付くことができるが、自分から気付き律することができる児童は少ない。

道徳科の学習では、一人一人が自分の考えを持ち、授業に積極的に参加しようとする姿勢が見られる。主人公に自分の姿を重ね、自分の考えをのびのびと表現できているように感じられる。多くの児童が週に1時間の道徳科の学習を楽しみにしている。

4月の最初の授業で道徳開きを行った際は、「道徳科の授業は、何のために学習をするのか」ということを問いかけ、学級全体で考えた。児童からは、「心をつかって、幸せになるために」という考えが出た。「自分だけでなく家族や友達、地域の人、日本中、世界中の人々が幸せになるために学習することが大切」という児童の発言が出たので、毎時間の学習では、幸せのために自分はどのように心を働かせて、どのように生きていくのかを考えさせてきた。Aの【主として自分自身に関すること】の内容項目の学習においても必ず周囲の人や社会全体のことについて考えられるようなウェルビーイングの視点を取り入れた発問を行ってきた。ま

だ、幼児性が強く自分がることが最優先になる児童が多いが、道徳科の授業を要とする道徳教育や学校行事、学級活動等を通して、協調性や利他性が少しづつ育ってきているように感じられる。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、自分を律し時間を守ることで、気持ちよく生活することができるという価値が描かれている。一人一台端末という児童にとっては大変身近なものが題材になっているので、概ねの児童が主人公の気持ちに共感しやすいことが考えられる。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合う。

#### ① タブレットに夢中になって取り組んでいる場面

自分の好きなことをしているときの気持ちよさや、なかなかやめることができない人間の本能や弱さについて共感させる。【人間理解】

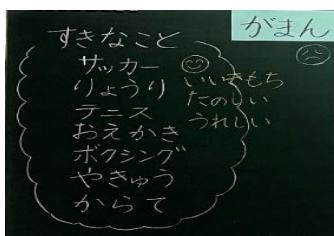
#### ② タブレットに夢中になりすぎて、友達と約束していた遊びに間に合わなかった場面

友達との約束を守れなかったこと、友達を悲しませたこと、自分の弱さを実感したことなど後悔や反省のような多様な気持ちを想起させる。【他者理解】

#### ③ タブレットをすぐにやめて、友達と一緒に遊ぶことができ、すっきりしている場面

好きなことを我慢したけれど、友達と遊ぶことができたり約束を守ることができたりした自分に対して満足していることに気付かせ、規則正しい生活を自ら行うことのよさを感じさせる。【価値理解】

## 4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 5分	<p>1 普段の生活を想起し、問題意識をもつ。</p> <p>(1) 好きなことはありますか。</p> <p>(2) 好きなことをしているときはどんな気持ちになりますか。</p> <p>(3) 好きなことをしているときに「我慢しましょう」と言われたらどんな気持ちになりますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム。</li> <li>・遊び。</li> <li>・習いごと。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嬉しい。</li> <li>・いい気持ちになる。</li> <li>・もっとやりたくなる。</li> </ul> <div style="background-color: #e6eaf2; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>すきなこと 😊 がまん 😢 顔の表情を板書してわかりやすく</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌な気持ち。</li> <li>・我慢したくない。</li> <li>・好きなことを続けたい。</li> <li>・もっと自由にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活を想起させて、自分事として考えやすくさせる。</li> <li>・様々な制約がある中で生活していることに気付かせ、節制することの意義を考える土台を作る。</li> <li>・普段、したくないこともしていることに気付かせ、違和感を抱き、問題意識をもてるようになる。</li> </ul>

## ◎問題意識をもたせるための導入の工夫

T：みんなの好きなことを教えてください。

C：サッカー、料理、テニス、遊ぶこと・・・

T：好きなことをしているときはどんな気持ちになりますか。

C：嬉しい、楽しい、いい気持ち、もっとやりたくなる

T：そうだよね。好きなことを「我慢しましょう」と言われたらどんな気持ちかな。

C：嫌な気持ちになる。我慢はしたくない。でもしなきやいけないときもあるかも。

T：先生やおうちの人によく「我慢しようね」とか「今はやらないよ」って言われると思うけれど、嫌なこと言っているね。なんでそんなこと言うのかな。我慢は必要かな。

C：必要かもしれない。何でだろう。

T：我慢すると何かいいことがあるのかな。今日はみんなで我慢するはどうしてなのか考えよう。

普段の生活での家族や教師とのやりとりを想起させ、今までには気付かなかった違和感を抱かせ、問題意識をもたせる。本時の学習課題へつなげる。

我慢するはどうしてかな。

本時の学習課題へつなげる

展開 37分 2 登場人物、設定を知る。

登場人物：そうた、先生、ともだち

条件・情況：大好きなタブレットに夢中になりすぎてしまい、約束に遅れてしまう。



今日は、そうたさんに  
なって聞いてね。

- ・事前に確認しておくことで、全員が教材文を理解し、話合いの土台に乗ることができるようにする。
- ・自分の考えをもちやすくするように、聞く視点を与える。

埼玉県教育委員会のHPから教材文の挿絵を提示した。

## ◎教材文の世界に没入し、話合いの土台をつくるための工夫

### ① ICT機器を活用し、教材文の読み聞かせを行う

挿絵のみを大型モニターに映し出し、絵を動かしながら読み聞かせを行う。机の上には何も出でていないので、集中して聞くことができる。児童は聞きながら、たくさん呟いていた。



### ② ICT端末を活用し、主人公と同じ状況を体験する

2分ほど自分のICT端末を使って、好きなことを行う時間を作る。体験することで、主人公の気持ち（人間の弱さや人間らしさ）に共感することができる。【人間理解】

<p>3 教材を読み、話し合う。</p> <p>(1)の発問の前に、好きなように自分のＩＣＴ端末を作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい。</li> <li>・嬉しい。</li> <li>・もう終わりなのか。</li> <li>・もう少しやりたかったな。</li> </ul> <p>(1) タブレットタイムのとき、そなたはどんな気持ちですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嬉しい。</li> <li>・やっとこの時間がきた。</li> <li>・早く問題をやりたい。</li> <li>・もっとたくさんやりたい。</li> <li>・芽が大きくなるのが楽しみ。</li> <li>・この時間がずっと続いてほしい。</li> </ul> <p>(2) 友達との遊びにおくれてしまったとき、そなたはどんなことを考えていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまった。</li> <li>・少しだら大丈夫だと思ったのに。</li> <li>・友達に悪いことをしてしまったな。</li> <li>・失敗したな。</li> <li>・もっと早くやめればよかった。</li> <li>・自分が悪いな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公と同じ状況を体験させ、タブレットに夢中になっているときの気持ちを考えさせる。</li> </ul> <p><b>規律ある態度の育成</b></p> <p><b>【話を聞き、発表する】</b></p> <p>ペアや学級全体の話合いを通して、友達の発表をしつかり聞き、自分の考えをもち、伝えることができるようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の行動や心情を考えさせることにより、自ら節制することの難しさを感じさせる。</li> <li>・補助発問を行うことにより、多面的・多角的な感じ方ができるようにする。</li> </ul> <p>☆主人公の姿に自分を重ね、友達の意見を受容しながら話し合っている。</p>
---	--	---

<p>◎多面的・多角的な感じ方ができるようにするための工夫</p> <p>T : 友達との遊びに遅れたとき、そなたはどんな気持ちでしたか。</p> <p>C : ブランコができなくて悲しかった。</p> <p>C : 友達と遊べなくて後悔している。</p> <p>C : もっと早くやめればよかったと思っている。</p> <p><u>T : ブランコで遊びたかったら放課後に来て遊べばいいんじゃないの。</u></p> <p>C : それではだめ。友達も楽しくなかったと思う。</p> <p>C : 友達にも悲しい思いをさせてしまった。</p>	<p>ブランコに乗れなかったという後悔だけではなく、友達との約束を守ることができず、自分の行為が友達にも影響を与えていたことに気付かせる。</p>
--	---

<p>(3) 我慢したのにすっきりしたのはなぜですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコで遊べたから。</li> <li>・友達との約束を守れたから。</li> <li>・時間を守ることができたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の心情を考えさせることにより、節制することのよさを感じさせる。</li> </ul>
---------------------------------	---	---

### ◎ウェルビーイングの視点を取り入れる工夫

T: 好きなことを我慢したのになぜすっきりしたのでしょうか。

C: 友達と遊べたから。

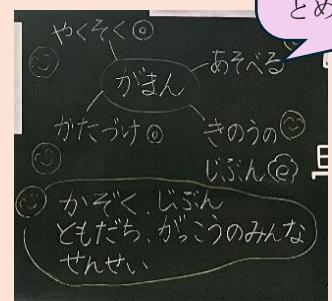
C: 約束をまもることができたから。

C: タブレットを早く片付けることができたから。

C: 昨日の自分よりもよくなつたから。

T: 嬉しくなつたり気持ちよくなつたりするのは自分だけなのかな。

C: 家族。友達。学校のみんな。先生。



自分だけが幸せや生きがいを感じるのではなく、周囲の人や社会全体の幸せも考えられるようにする。自分の行動が周囲にも影響を与えることに気付かせる。

#### 4 自己を見つめる。

今日の学習で見つけた  
「我慢することのよ  
さ」をかきましょう。  
(ワークシートに記  
述)

- ・自分の気持ちがすっきりする。
- ・さらにいい自分になる。
- ・規則正しい生活ができる。
- ・友達との約束を守ることができる。
- ・人に迷惑をかけない。
- ・みんなが気持ちよく生活することができる。

- ・教材を通して考えてきたことと、自分自身のことを重ねて考えさせることにより、より自分事としてさらに多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・文章で表現することが難しい児童には、絵で表現させる。

#### ☆児童のワークシートの記述内容

- ・我慢することでいい気もちになれる。みんながハッピーになれる気がする。
- ・我慢をしたら、約束をしていた友達と遊ぶことができる。
- ・最初は、我慢はよくないと思っていたけれど、我慢にもいいことがあると知った。
- ・我慢をすると楽しいことが待っている。
- ・いつも楽しいことをしているときに「かたづけなさい」と言われるけれど、それが自分のためになっているんだろうな。

☆わがままをせずに、よりよく生きるために自分で考えて判断するよさを感じている。(記述)



我慢をすると、家族の手伝いが  
できて、家族のためになる。

我慢をすると、友達と鬼ごっこ  
をして遊ぶことができる。



発達の段階を考慮して、文章と絵での表現を選択させた。文を書くことが苦手な児童にとっては、有効な手立てになっていた。絵で表現した児童においては、教師が聞き取りを行い、内容を把握した。

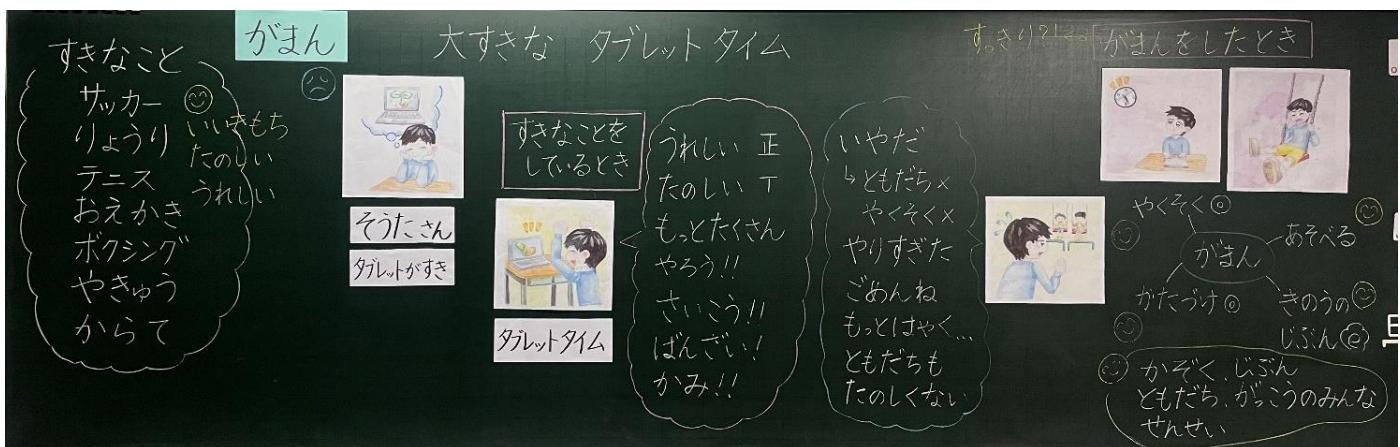
終末 3分	5 教師の話を聞く。 遠足で、皆が少しづつ 我慢をしてマナーよく、楽しく過ごすことができたことを話す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>我慢はつらいことだけれど、自分やみんなのために大切なことは大切だと思った。</li> <li>自分たちもできているんだなあ。</li> <li>これからも頑張っていこう。</li> </ul>	<p>本時の学習は、普段の生活の中でも大切な身構えであることを自覚させる。</p>

◎道徳科の学習と自己の生き方がつながる工夫

説話では、児童が節度、節制をもって行動できていた場面を提示し、普段の生活の価値づけを行い、意欲をもたせる。また、本時の学習が自己の行いや行動につながっていることを自覚させる。

遠足の写真を提示する。

## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

事前指導	7月 学活「約束を守ってタブレットを使おう」 タブレットを使用する際の約束を理解し、操作方法を学ぶ。
道徳科	5月 教材名『きもちが よいのは?』(節度、節制) 6月 教材名『きを つけて』(節度、節制) 10月 教材名『大好きなタブレットタイム』(節度、節制)
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室内にある道徳コーナーに児童の考えを掲示する。</li> <li>道徳ノートにコメントを書き、意欲を高める。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業内容や児童の様子を学級だより等で紹介し、授業の内容について話題にしてもらう。</li> <li>児童の考えや思ったこと等を教室内の「道徳コーナー」に掲示し、保護者会で来校される際に見てももらう。</li> </ul>

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公の姿に自分を重ね、友達の意見を受容しながら話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・わがままをせずに、よりよく生きるために自分で考えて判断するよさを感じている。